

二 中 生 の 質 問 × 防 災 士 解 説 & ア ド バ イ ス

学 年	二 中 生 の 質 問	防 災 士 か ら の 解 説 ・ ア ド バ イ ス
1 年	避難をしてみたら、どんな感じになるか気になる。	実際に避難すると、思っている以上に大変なことがあります。道路が混雑したり、雨や風の中を歩いたり、停電して暗くなったりすることもあります。また、避難所では多くの人と一緒に過ごすため、普段の生活より不便になります。 だからこそ、災害が起きてから考えるのではなく、平常時に「どこへ・いつ・どうやって逃げるか」を決めておくことが大切です。これがマイ・タイムラインの目的です。
1 年	避難した生活を想像したら、トイレがあまりにも大変だと分かり、準備しておかないと思った。	とても重要な気づきです。災害では断水や停電によって、普段の水洗トイレが使えなくなることがあります。そのため、携帯トイレ・簡易トイレを備えておくことが重要です。トイレは一人が1日に何回も使うので、家族分を多めに準備しておく必要があります。避難所でもトイレ不足は大きな問題になります。 防災のポイント：「水・食料」だけでなく、「トイレ」も命をつなぐ重要な備蓄品です。
1 年	親が仕事でいない時とか、もし家にいるのが子どもだけだったらどうするべきか？	まず大切なのは、自分の命を守ることです。災害が起きたときに「親が帰ってくるまで待つ」とは限りません。津波や洪水など、すぐに避難が必要な場合は、自分で判断して避難することも必要です。そのため、家族であらかじめ、災害が起きたらどこへ行くか、家族の集合場所、連絡が取れない場合どうするか、誰に助けを求めるかを決めておきましょう。「家族がいないから何もできない」ではなく、「家族がいなくても行動できる準備」をしておくことが大切です。
1 年	ハザードマップより水位が上がることもあるのか気になる。それより上にこなければ、家族だけでなんとかかなるから。	あります。ハザードマップは「絶対にここまでしか水が来ない」という予言ではありません。ハザードマップは、想定した雨や河川条件などをもとに浸水する範囲や深さを示したものです。実際の災害では、想定を超える雨が降ったり、複数の場所で同時に浸水したりすることがあります。また、浸水深だけでなく、「家屋が流される危険がないか」「土砂災害の危険がないか」「避難経路が水没しないか」も確認する必要があります。したがって、**「ハザードマップの色が安全だから大丈夫」ではなく、「想定を超える可能性も考えて、早めに避難する」**ことが重要です。
1 年	自宅が意外と安全なんだと思った。	それは良い発見です。防災では、「必ず避難所へ行く」ことが正解とは限りません。自宅が安全な場所にあり、建物にも大きな危険がなく、浸水しても安全な高さが確保できる場合は、自宅で安全を確保する「在宅避難」が適している場合もあります。ただし、洪水・土砂災害・津波など災害の種類によって安全性は変わります。「自宅は安全」という結果が出たら、「では、どんな災害なら自宅にいてよく、どんな災害なら避難するのか？」まで考えてみると、さらに良いマイ・タイムラインになります。
1 年	成果発表で、他の班の人の意見もいいと思った。自分たちが考えていなかったことを考えているなと思った。	これは防災学習でとても大切なことです。災害への備えには、一つだけの正解があるとは限りません。例えば、「早めに避難する」「自宅の2階へ避難する」「親に連絡する」「近所の人に声をかける」など、住んでいる場所や家族構成によって適切な行動が変わります。他の人の考えを聞くことで、自分では気づかなかった危険や行動を発見できます。
1 年	水関係以外の他の自然災害も知りたいと思った。	もちろんです。防災では水害だけでなく、地震、津波、土砂災害、大雪・雪崩、火山災害、強風・竜巻、大規模な火災、高温などの気象災害なども考える必要があります。 大切なのは、**「災害によって避難方法が違う」**ことです。例えば、洪水では高い場所への避難が有効な場合がありますが、津波ではさらに高い場所への避難が必要です。一方、地震ではまず落下物や家具から身を守ることが優先です。

二 中 生 の 質 問 × 防 災 士 解 説 & ア ド バ イ ス

学 年	二 中 生 の 質 問	防 災 士 か ら の 解 説 ・ ア ド バ イ ス
2 年	自宅の2階に避難したとき、食料、飲料水はどのくらいあればよいか？	家庭の備蓄は、最低3日分、できれば1週間分を目安にしましょう。飲料水は、1人1日3L程度が目安です。例えば、4人家族なら、3日で約36L、7日で約84Lとなります。ただし、これは「飲み水など」の目安です。 トイレや洗濯などに使う生活用水は別に必要です。そして、自宅2階に避難する場合でも、トイレの備えは必須です。
2 年	避難するときは、何で避難すれば良いか？	基本は徒歩です。車は道路の渋滞や浸水によって動けなくなる危険があります。また、車で避難することで緊急車両の通行を妨げることもあります。 ただし、高齢者、障害のある人、乳幼児、歩行が困難な人などの場合は、車などが必要になることがあります。 重要なのは、「一番早く、安全に避難できる方法は何か」を災害が起きる前に考えておくことです。
2 年	どのような所に水がたまるのか調べたい。	水は基本的に低いところへ集まります。例えば、周囲より低くなっている道路、アンダーパス、地下道、河川の近く、水路・側溝の周辺、くぼ地などです。ただし、地形だけでなく、下水道などの排水能力を超える雨によって、河川から離れた場所でも水がたまることがあります。自宅や学校の周りを実際に歩いて、「雨が強く降ったら、ここに水が集まりそうだ」という場所を探してみるのも、とても良い防災学習です。
2 年	津波や洪水はどれくらい速いのか？	災害の種類や地形によって違います。特に津波は非常に速く、沖合の深い海では時速800km程度で伝わる場合があります。陸に近づくとも速度は遅くなりますが、それでも人が走って逃げ切れるものではありません。だから、「津波を見てから逃げる」のではなく、「津波が来るかもしれない」と思った時点で逃げることが重要です。
2 年	今は津波が来るかわかるが、昔はどうしていたのか？日本は地震や津波が多かったはずだし、津波からどうやって逃げていたのか？	昔の人は、現在のようなテレビやスマートフォン、津波警報がありませんでした。そのため、大きな揺れを感じたら高いところへ逃げる、海の様子がおかしくなったら避難する、昔の津波の経験を言い伝える、石碑などに記録を残す、高台や寺社などを避難場所として利用するといった方法で命を守ってきました。 現在は気象庁の津波情報などを利用できますが、強い揺れや長い揺れを感じたら、情報を待たずに避難することも重要です。津波警報が発表されても、すぐに避難を開始します。
2 年	もし、洪水にまきこまれてしまった場合、どうすればいいのか？	一番大切なのは、洪水に巻き込まれる前に避難することです。 水が流れている道路を無理に歩いたり、川の様子を見に行ったりしてはいけません。もし避難が遅れてしまった場合は、状況に応じて、「少しでも高い場所へ移動する」「建物の上階へ移動する」「水の流れが強い場所に入らない」など、自分の命を守る行動を取ります。ただし、家屋倒壊等氾濫想定区域などでは、単純に「2階に行けば安全」とは限りません。だからこそ、「避難が必要になってから逃げる」のではなく、危険になる前に逃げることがマイ・タイムラインの重要な考え方です。
2 年	川を掘れば（深くすれば）氾らんは無くなるのではないか？	面白い考え方です。実際、川では土砂がたまった場合に掘削することがあります。しかし、川を深くすれば土砂がなくなる、という単純な話ではありません。山から土砂が流れてきたり、川の流れが弱くなる場所に土砂がたまったりするためです。また、川を深くするだけでは、上流から土砂が流れてくる、大雨で大量の土砂が流入する、川岸が削られる、海へ土砂が流れ出るなどの問題があります。つまり、河川の土砂問題は、**「川だけを見るのではなく、山から海まで全体を見る」**ことが重要です。

</

二中学生の質問 × 防災士解説&アドバイス

学 年	二中学生の質問	防災士からの解説・アドバイス
3 年	自分で考えて、災害時の避難した場所ではボランティア活動をした と思った。	とても素晴らしい考えです。災害時には消防・警察・自衛隊などだけでなく、地域の人たちやボランティアの力も重要になります。ただし、災害直後は危険な場所も多いため、「助けたい」という気持ちだけで危険な場所に入ってはいけません。まず、①自分の安全、②家族・周囲の人の安全、③安全が確認された場所のできる支援という順番で考えましょう。 中学生なら、避難所での整理整頓、物資の運搬、案内、子どもの遊び相手など、状況に応じてできることがあります。
3 年	自分が将来住む所は、土砂災害警戒区域に入っているのか、または入ってしまうのか興味を持った。	これは、ぜひ大人になってからも続けてほしい視点です。 家を選ぶときには、「駅から近いか」「家賃はいくらか」「買い物に便利か」だけでなく、「災害に対して安全か」も重要な条件です。 土砂災害だけでなく、洪水、内水氾濫、津波、高潮、地震、液状化なども確認するとよいでしょう。国土交通省のハザードマップでは、洪水などの災害リスクを確認できます。